

第59号・平成27(2015)年4月1日

同志社ファンを増やす会 発行

hgf02421@doshisha-u.net

1. 水谷理事長ご講演記録「志の中で」

— 新島襄永眠125周年 記念講演 —

- ・講師：水谷 誠氏（学校法人同志社理事長）
- ・演題：「志の中で」
- ・日時：2015.1.23 ・場所：聖ステパノ学園海の見えるホール（大磯町）

上記の講演を敷衍・要約した原稿を水谷理事長様より頂戴いたしました。

水谷 誠理事長は、新島の志を説くために、いくつかの情報を紹介し、それらを立体的に組み立てて話されました。その個々の情報は、同志社人としてとても重要な情報で、かつ切り口が新鮮でした。

講演というものは、一定の時間内に、連続して、情報提供されます。しかし、その講演を文字にして、連載できるのであれば、確かな理解のために、全文を一時に掲載するのではなく、一つ一つを吟味していただきながらお読みいただきたいと編者は考え、何度かに分けて掲載し、お届けします。勿論、通読する機会を最後に設けますので、楽しみにしていただきたいと思います。

ご講演の分割と私なりの見出し、そして、掲載号は次の通り予定しています。

- | | |
|---------|-------------------------------|
| 4 / 1号 | 1. 新島の誕生・脱国・ハーディー夫妻 |
| | 2. 当時の日本のキリスト教事情・同志社英学校開校 |
| 4 / 15号 | 3. 新島の最期・不破ユウ |
| | 4. 新島夫妻の素顔 |
| 5 / 1号 | 5. 新島のキリスト教会への貢献 |
| | 6. キリスト教的良心とは |
| 5 / 15号 | 7. 新島の教育思想の構成要素その1・信頼に満ちた人間関係 |
| | 8. 構成要素その2・私立の学校 |
| | 9. 構成要素その3・キリスト教（新島を育んだキリスト教） |
| 6 / 1号 | 10. 新島の教育姿勢とその背景 |
| | 11. 新島が目指した人物 |
| | 12. キリスト教的な人間理解・最後に. |
| 6 / 15号 | 全文紹介 |
-<講演内容は添付をご覧ください>.....

<今号の内容>

(講演の冒頭に、講演の機会を得たお礼、この会場の聖ステパノ学園へのお礼、大磯町へのお礼、そして碑前祭への参加の御礼があり本論に入られた。)

1. 新島の誕生・脱国・ハーディー夫妻

今日は新島襄の教育思想について私なりの考えを述べさせていただきます。

新島襄について初めてお聞きになる方もおられると思いますので、少し一般的なことを紹介しながらお話しいたします。

新島が生まれたのは、天保14年1月14日(西暦1843年2月12日)、江戸の安中藩の藩邸でした。幼名は七五三太(シメタ)です。安中藩邸は現在の神田の学士会館の所がありました。毎年そこでは生誕記念の碑前祭が催されています。現在、その辺りで再開発が進められており、新しく作られる公園の名前としてその地に新島襄が生まれたことに因んで彼の幼名を取り入れたものが検討されていると伝え聞いています。そのようなことになれば大変うれしいことです。

さて、新島は安中藩士の子、下級武士の子でありました。少年時代には、位が上の武士が向こうからやって来るとたとえ相手が年下であっても廊下隅に控えて、頭を下げて相手が通りすぎるのを待たなければなりません。このような封建的な在りようを不条理と捉えて彼の中に沸々と不満が湧いていました。そんなある日、江戸湾でオランダの黒船を見たのです。日本の船と比べ質も大きさもあまりにも違うので腰を抜かすほど驚いたようです。黒船を見て、日本の外では、どのようなことが起こっているのか、どのような国があり、それらの国はどのように成り立っているのかという問いかけは、日本の封建社会への不満と重なって、「我が国の全面的な改善と革新を求めるといふ大志を奮起させる」ものであったと後に記しています(「私の若き日々」My Younger Days)。新島は幼い時から漢学や武術を学んでいましたが、長じて蘭学や航海術をさらに学び始めます。そのような時に、新島は安中藩の本家筋に当たる備中松山藩が購入した「快風丸」という洋式帆船に乗船する許しを藩の重役に頼んで得ます。

新島は、この快風丸の二度目の乗船で函館に出かけました。家族は、この長子が何を考えているのか薄々と感じていたようで、別れの宴は水盃でなされたと伝えられています。函館では、ロシア正教会のニコライ司祭に日本語を教え、代わりに英語を教えてもらうことになりました。このニコライは東京神田にあるニコライ堂のニコライです。函館で新島は密かに国を抜け出す準備をしていました。元治元年6月14日(1864年7月18日)の夜半になって函館で知り合った福士卯之吉に頼んで、和船に乗って沖に浮かぶベルリン号という商船に乗り込みました。その船で脱国し、まずは上海に行きました。上海ではワイルド・

ローヴァー号に乗り換えて、積み荷を運搬しながら香港やサイゴン、マニラなどに寄港しつつ、アメリカの東海岸のボストンにやってきます。ボストンに到着したのは函館を出てから一年後の1865年7月20日のことでした。その間、新島は船長の身の回りの世話をし、また水夫としての労役に服しながら過ごしたのです。

けれどもボストンに着いて行くあてがあったわけでもなく、停泊した船の船内で三か月ほど留守番のようにして過ごしました。その間、不安にさいなまれ、夜も眠れない日々が続いたとのことでした。しかし、ある時にワイルド・ローヴァー号のテラー船長の紹介で船主のA・ハーディーさんがやってくる。新島に「何のためにアメリカにやって来たのか」と問いかけました。新島は懸命に英語で話しましたが通じなくて、ハーディーさんには後日文章にして彼の渡航の目的を伝えます。それを読んだハーディー夫妻は新島の志を受け止めて、パトロンとして彼を支えようと決心しました。

新島はハーディー夫妻の支援を得て、9年あまりのアメリカ滞在の間に3つの学校で学び、卒業しました。まずは高校にあたるフィリップス・アカデミー、そしてアーモスト大学、さらにキリスト教の牧師を養成するアンドーヴァー神学校です。この学びの期間に新島は教育事業に一身を打ち込むというその志を具体的に創り上げて、1874年にコロラド号でサンフランシスコを旅立ち日本に帰国します。横浜に着いたのは11月26日、一ヶ月弱の航海でした。そしてその1年後に同志社英学校を設立しました。

2. 当時の日本のキリスト教事情・同志社英学校開校

当時の日本、江戸幕府から明治新政府に移ったその時代はキリスト教にとってどのような時代だったのでしょうか。日本には昔からキリスト教を受け入れることが難しい土壌がありました。初めて日本にキリスト教が伝わったのは16世紀で、フランシスコ・ザビエルが鹿児島で布教活動を始めています。日本にいた2年間でおおよそ700名の日本人をキリスト教(キリシタン)に改宗させたと言われていています。ザビエルはカトリックの修道会であるイエズス会をイグナチオス・ロヨラと共に立ち上げた人です。イエズス会は16世紀ヨーロッパで広がった宗教改革運動によって地盤を失ったカトリック教会の中で、その復興を目指して設立された修道会です。ザビエルはカトリックのキリスト教を海外にも広めようとして日本にやってきました。

その後、織田信長が布教を正式に認めたことからキリスト教は盛んになり、60万人のキリスト教徒が生まれ、社会に影響を及ぼしました。その勢力の膨張に危機感を抱いた豊臣秀吉は1587年にキリスト教を禁止し、宣教師を追放します。そして、江戸幕府になってからの1654年には「切支丹宗門の儀は是迄御制禁の通堅く可相守事」と書き記された「切支丹禁制の高札」が立てられます。これは1873(明治6)年まで220年もの間続きます。1873年に、明治政府はこの高札を撤去したのですが、そのきっかけとなったのは岩倉遣外使節

団からの報告によります。日本は幕末以来、外国から押しつけられた不平等条約を撤廃し、対等の条約締結を願っていました。そのことと欧米の文化を視察するために岩倉具視を団長とする使節団を米欧に派遣しました。各国でのやり取りの中で条約改正の交渉については、日本はキリスト教を禁止していると反発を受けます。使節団はキリシタン弾圧が条約改正の障害となっていることを知り、1872年に本国の留守政府に「速やかに信教の自由を許さねば我々の任務は全うし難し」と打電をすることになります。それでその翌年の1873（明治6）年にキリシタン禁制の高札は撤去されました。しかし、全国各地の高札を一挙に撤去できるわけもなく、また200年以上続いたこの理解がにわかには消失したわけでもありません。新島が帰国したのは、その次の年の1874年11月のことであり、キリスト教への逆風の中で「敢えて風雪を侵して開く」寒梅のように同志社英学校を開校し、それ以来1890年1月に亡くなるまで新島は同志社教育の発展のため、学校の維持、資金確保のために東奔西走したのであります。（次号4／15号につづく）

2. 神学部小原克博教授の「建学の精神とキリスト教」第11回

キリスト教の基礎（3） つぎのURLからインターネット授業をご覧ください。
<https://www.youtube.com/watch?v=VY9ZoqbKSu0>

<はじめに>

なぜ、我々同志社人はキリスト教について学ぶべきなのか？

同志社は次のようにキリスト教と深い関係があります。従って、建学の精神を知るには欠かせない内容です。

1. 新島は国を背負うべき日本の若者を教育するために、キリスト教主義教育を徳育の基本とした。
2. 新島がアメリカで所属していたのは、プロテスタント教会の流れをくむ「組合教会」(Congregational Church)であった。
この教派は、聖書を重んじるとともに、信徒一人ひとりの自覚的な信仰、意志を尊重し、そのような高い意識を持った信徒の集まりである各教会の自主・自立性を重視するのが特徴。
3. 新島が熱く唱え、現在も同志社大学の柱のひとつとなっている「自由主義」は、この組合教会の考え方から生まれ、継承されているものと言えます。
4. 同志社のめざす教育理念「良心教育」もまた、新島がキリスト教を基盤としたアメリカの生活から学んだことでした。

また、国際人として宗教の理解は欠かせない常識になっているからです。今回は、その入り口を知る手がかりを得ることが出来ます。

<レジュメは添付をご覧ください>

1. 今日のキリスト教の位置づけ

- ・キリスト教・・・33% 20億人（内10億人がカトリック教徒）
- ・イスラム教・・・20～22%（12～15億人）
- ・ヒンズー教・・・15%
- ・仏教・・・・・・・・・・6%

キリスト教が伸びているのは、非西洋圏である。

日本では人口の1%であるが、文化的思想的な影響力を持っていた。

韓国では20～30%。

カトリック教会について（ウイキペディアより）

日本語表記でプロテスタント教会を「新教」とも呼び、カトリック教会を「旧教」と呼ぶ例もあった。しかし、カトリック教会側が「旧教」を自称したことはない。また、別の名称で、天主公教会（てんしゅこうきょうかい）と称していた。これはかつて神のことを「天主」と呼んでいたため、大浦天主堂・浦上天主堂などの名称はこれに由来するものである。また「公教」の例で「長崎公教神学校（現・長崎カトリック神学院）」などがあったが、現在ではほとんどない。なお、「カソリック」と表記されることもあるが、カトリック中央協議会では公式表記とはみなしていない。

2. 一神教の文明論的系譜

- ・一神教とは、ただひとつの神的存在者のみを認めてこれを信仰する宗教。通常、ユダヤ教、キリスト教、イスラム教の3つがその典型だとされる。
＜ウイキペディアより＞
- ・アブラハムがユダヤ教、キリスト教、イスラム教の3つの共通の先祖。ヘブライズムとヘレニズムをベースにする兄弟であった。一神教を「アブラハム宗教」とも言う。
- ・ユダヤ教は、BC20に聖書の預言者アブラハムが信仰の父。ユダヤ教らしさが出てくるのは、BC13に預言者モーゼが現れたことで「十戒」
- ・キリスト教は、イエスの誕生から西暦を起算しているが、実際は3～6年前と言われている。キリスト教はユダヤ教の一派であった。
- ・イスラーム教

ユダヤ人の大虐殺、ホロコースト

3. キリスト教の起源

元々は、パレスティナという田舎の宗教だった。カルト宗教ではないかと疑われた。当時はローマ皇帝に逆らわないこと、それが社会秩序であった。

イエスは社会秩序を乱す人物として、ローマからもユダヤ教側からも判断され、十字架の刑に処された。(30年頃)

後にパウロがギリシャ、ローマまで宣教した。

紀元1世紀中頃、イエスの死後に起こった弟子の運動(初期キリスト教運動)が、キリスト教の直接的な起源である。ユダヤ教の一派として活動していたが独立した。エルサレムで始まった。

パウロなどの宣教者によって、ギリシャ・ローマ世界に、イエスのメッセージが伝達された。

4. 多様な教会形成の歴史

大別すると東方キリスト教世界と西方キリスト教世界がある。

4-1. 東方キリスト教世界

ギリシャ語中心に東へ拡大。各地域毎に正教会が独立している。

ギリシャ正教会、ロシア正教会など。トルストイなどが影響を受けている。

4-2. 西方キリスト教世界

ラテン語が中心。基点はローマ。ベースはカトリック。

・ローマ・カトリック教会

・聖公会(英国国教会)・・・バチカンが国王の離婚を認めなかったので独立。

ルターの宗教改革(1517)でプロテスタントが分派した。

・プロテスタント教会

ールター派(ルーテル)教会、ー改革派教会、長老派教会

ー会衆派教会 ーバプテスト教会 ーメソジスト教会など

時代と共に細分化していった。

5. エキュメニカル運動(20世紀の初頭)

キリスト教の教派を超えた結束を目指す、キリスト教の教派一致促進運動として始まった。

貧富の差が拡大し、スラムに手をさしのべようとするとき、教派の区別は関係がない、ナンセンスである、これが動機であった。

その具体的な動きとして世界教会協議会がある。

6. 世界教会協議会 (The World Council of Churches、略:WCC)

1948年オランダアムステルダムで発足した世界的なエキュメニカル組織。120か国以上からの342を超える教会と教派の会員が所属している。WCCの会員には、多数のプロテスタント、ほとんどの正教会、アングリカン・コミュニオン(聖公会)、いくつかのバプテスト教会、ルター派世界連盟に加盟するルター派教会(保守的なルター派教会はWCC非加盟)、メソジスト、改革派教会、カリスマ運動、復古カトリック教会が含まれる。

最大のキリスト教の教派であるローマ・カトリック教会はWCCの正式なメンバーではなかったが、30年以上会議にオブザーバーとして参加している。

7. カトリックの変容

1962～1965、第二バチカン公会議以降、変化が見られた。

- 1) カトリックの現代化がテーマになっている。
- 2) 他の宗教との対話の意義を認める。それまでは、自分たちこそが正しい宗教だと他宗教に理解を示さなかった。

.....

2. 同志社の施設紹介「同志社墓地」

若王子にある新島襄の墓と同じ土地にある同志社関係者の墓を訊ねた。新島襄の現在の墓は、三代目。最初は木製で、その次の墓は1986年に壊された。今の墓は、ラットランドの花崗岩で作られています。

同志社大学のホームページも参考にしてください。

<http://www.doshisha.ac.jp/information/facility/retreat.html>

<ホームページの序文より> 左京区鹿ヶ谷若王子山町に同志社墓地があります。創立者新島襄をはじめ、妻新島八重や山本覚馬、徳富猪一郎、同志社関係の宣教師たちが眠っています。場所は左京区鹿ヶ谷若王子山町 若王子神社から山道を徒歩25分。

<ホームページには、若王子山頂までの地図の他、同志社共葬墓地内のお墓の配置図も出ています>